

1. 背景

Myosin-9 (MYH9) はアクチン結合性のモータータンパク質であるミオシンスーパーファミリーに属する。近年、MYH9 は癌細胞における移動、浸潤、転移に関与すると考えられている。本研究では免疫組織化学的手法を用いて非小細胞肺癌切除症例の腫瘍細胞膜における MYH9 の発現および臨床病理学的特徴と予後に関して検討を行った。

2. 方法

完全切除された連続した非小細胞肺癌 266 例を対象とし免疫組織化学的手法を用いて MYH9 の発現と臨床病理学的因子との関連の評価を行った。予後における MYH9 発現との関連については kaplan-Meier 曲線と Cox 比例ハザードモデルを用いて検討を行った。

3. 結果

MYH9 陽性症例は 266 症例中、102 症例 (38.3%) であった。MYH9 陽性症例は腺癌 ($p = 0.014$)、低分化度 ($p = 0.033$)、血管侵襲 ($p = 0.013$)、リンパ管侵襲 ($p = 0.045$)、予後不良 ($p = 0.032$) との関連が認められた。さらに多変量解析において MYH9 の発現は独立した予後不良因子であることが示された (HR, 2.15; 95%CI, 1.17-3.92; $p = 0.01$)。

5. 考察

今回の結果より一部の非小細胞肺癌の腫瘍細胞膜に MYH9 が発現しており、MYH9 陽性症例は前述の各臨床病理学的因子との間に相関が認められた。さらに、MYH9 の発現が予後不良因子である可能性が示された。

MYH9 は細胞辺縁先端における仮足形成や細胞の移動、細胞質分裂などに関連しており、これらのことから腫瘍内脈管侵襲や低分化度などの臨床的悪性度と相関していると考えられた。

しかしながら、非小細胞肺癌における MYH9 発現の機序についてはさらに検討が必要であると考ええる。

6. 将来展望

本研究から非小細胞肺癌手術症例において、MYH9 の発現が予後不良因子であることが示されたが、今後はさらなる多数症例で、MYH9 の発現と予後に関して検討を行いたい。

また本研究にて着目した MYH9 はシスプラチン耐性細胞株にて著しい発

現を認めている。このことは MYH9 がシスプラチンにおける治療効果予測因子となり得る可能性があり、今後はシスプラチンを用いた術後化学療法施行症例での MYH9 発現と再発率や予後に関する検討、進行非小細胞肺癌における MYH9 発現とシスプラチンを用いた化学療法の奏効率、予後に関する検討を行いたい。